（学校番号217）　　令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【上大久保中】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	・各教科における基礎的な知識・技能の定着 ・授業を自ら振り返り家庭でも学習できるような主体性 ・自分の考えをしっかり持ったうえで、話し合い活動や共有活動などを行い、他者の意見を参考にしたり、自分の考えを広げる力 ・学習した知識を活用して、思考・判断・表現する力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	①習熟度別ドリル学習「上トレ」(国語の読解問題および数学の計算問題を中心に生徒それぞれが自分の習熟度に応じたペースで学習する時間)を設ける。【通年・各学年週1回】 ・学習習慣と基礎・基本の定着のために、各教科で小テストや基礎・基本の振り返りを定期的に実施する機会を設ける。【通年・不定期】 ・本校の実情に合わせた、協働的な学びの実践例を各教科ごとに設定し、課題となっている思考・判断・表現の力を養う時間を作る。【通年・毎授業】 ②統一授業モデル「上中スタンダード」で生徒が個人で目標を設定し、話し合い活動などを通して生徒が意欲的に取り組めるような授業を展開する。【通年・毎授業】

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	平均正答率では、3教科のいずれの観点でも全国、埼玉県のそれを下回った。 国語では、対象問題数が1問ではあるが、情報の扱い方に関する項目では全国、埼玉県の平均を上回った。それ以外はいずれの問題でも、全国、埼玉県の平均を下回った。読むことに関する項目や、短答式、記述式の問題が特に低かった。 数学では、全問題で全国平均を下回ったが、関数のグラフを読み、数学的に説明する問題では無回答率55%,正答率も全国平均の半分以下と特に低かった。数学でも、短答式、記述式の問題の正答率の低さが目立った。 英語(3技能)では、聞くこと、読むことの問題に関して、正答率が県平均よりも高い問題が多かった一方で、書くことの問題に課題が見られた。国語、数学と異なり、読むことでは思考判断表現の問題も県平均を上回るものが多かった。
結果から考えられる児童生徒の実態	全体を通して、短答式、記述式、思考判断表現の問題における、無回答率の高さと正答率の低さが顕著に見られたことから、まずは問題に向き合い、自分の知識・技能を用いて、正答を導こうとする姿勢を養う必要があると考えられる。選択式の知識を問う問題で解答できたものの、思考判断表現を問う問題だと解かなくなってしまう背景には、知識が体系的に整理されていなかったり、関係性を見出す視点が養われていなかったりするすることが考えられる。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※) B	習熟度別ドリル学習の習慣は定着してきた。学習に苦手意識を感じている生徒も、粘り強く取り組む様子が見られる。2学期以降、進度の速い生徒は用意された教材が終わってくることが予想されるので、そのような生徒に対する手立てを用意していく必要がある。
⇓		
学力向上策の見直し	変更なし	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

【参考データ】 ※記入任意	「重点的に育成する資質・能力」の状況をみる指標 ※この欄に記入した内容は、学校Webページには掲載しません。
全国学力・学習状況調査の調査問題・質問項目（内容・結果）	
さいたま市学習状況調査の調査問題・質問項目（内容・結果）	

※評　価
A　8割以上（達成）　　B　6割以上（おおむね達成）　　C　6割未満（あと一歩）